

## 平成22年度第1回成田市環境審議会会議録

### 1 開催日時

平成22年5月13日（木） 午前10時～午前11時45分

### 2 開催場所

成田市花崎町760番地

成田市役所3階第2応接室

### 3 出席者

（委員）

橘昌孝会長、本橋敬之助副会長、森山茂委員、藤井智子委員、片岡孝治委員、谷口俊六委員、長谷川優子委員、印宮昭夫委員、長尾ミチ子委員、設楽憲一委員、郡司正幹委員、加藤榮子委員、小川和也委員、會津信子委員、小倉茂委員、中山茂委員（成田市）

環境部長 瀧部 長瀧部長

環境計画課（事務局） 桑原課長、石井主幹、加藤副主査、新垣主事

クリーン推進課 保延課長、山田副主幹、西宮主査

### 4 議題

（1）ごみの分別区分の見直し及び家庭系ごみの有料化等についての方向（案）

（2）その他

### 5 議事（要旨）（○…委員、◎…会長、→…事務局の発言）

（1）ごみの分別区分の見直し及び家庭系ごみの有料化等についての方向（案）

ごみの分別区分の見直し及び家庭系ごみの有料化等についての方向（案）について事務局から説明を行った。なお、ごみの分別区分については事務局から以下の二つの変更例が示された。

変更例①：紙類、布類、燃やせるごみ、ビニールプラスチック類、ペットボトル、ビン・カン・ガラス、金物陶磁器類・有害ごみ、収集粗大ごみ、自己搬入粗大ごみ

変更例②：紙類、布類、燃やせるごみ、プラスチック製容器包装、ペットボトル、ビン・カン・ガラス、金物陶磁器類・有害ごみ、収集粗大ごみ、自己搬入粗大ごみ

これについて、以下の意見等が出された。

〔ごみ分別区分の見直し〕

○白色トレイは資源ごみになるのか。

→汚れていないきれいなものについては、プラスチック製容器包装に分別される。

○白色トレイはスーパーなどで店頭回収しているので、それを利用すればごみが少なくなるのではないか。

○変更例①では、ビニールプラスチックは固形燃料化・ペレット化するために、年間約

2億2,370万円の経費がかかる。しかし、プラスチック容器包装に分別すると、処理委託をしても経費は約6,944万円でリサイクルできるので、変更例②の方がいいのではないか。

- ごみの出し方によっては、資源ごみも資源にならないことがある。例えば布類は水を含んだ状態だと資源にならない。資源ごみを有効利用するために、回収方法などを十分に考えているか。  
→布類は濡れないように、透明なビニール袋等に入れて排出してもらうのが良いのではないかと考えている。新聞・雑誌・ダンボール等の紙類は、資源として回収していくため、それらを混ぜないように分別して縛ってもらい、ビニール袋等は使わずに排出してもらうのが良いのではないかと考えている。
- ごみ減量化は、行政がいくら頑張ってもできるものではない。住民が頑張らなければ実現できないので、分別したあと、どうかたちで排出してもらうかというマニュアルを作るなど、市民に細かいところまで協力を求めなければならない。
- ごみの分別を細かくすると、アパートやマンション等の家庭ではごみを置いておく場所をとってしまうので、そこを考慮して欲しい。
- 廃棄物減量等推進員の仕事内容はどんなものか。  
→各地区の区長からの推薦で選任している。各集積場を回り、ごみの排出方法を指導してもらっている。また、各地区で開かれる環境美化運動などに参加してもらっている。地域と市のパイプ役という観点で、各地区を見てもらっている。
- 新聞・雑誌・ダンボールは一緒にするのではなく、分別して出すということか。  
→混ぜないように集積所に出していただき、トラックの荷台に積む場所を分けながら収集するのが良いのではないかと考えている。
- 収集する側はたいへんではないか。現状のパッカー車では全て混ざってしまうが、その辺を考慮しているか。また、現在はどう回収しているのか。  
→基本的には、トラックの荷台に場所を分けながら積んでいく収集方法となる。新聞であれば新聞だけとして他のダンボール等とは混ぜないという条件で、パッカー車で収集することもできる。現在のリサイクル運動の紙類の回収は、トラックを使用し、種類ごとに紙類を分けて積んで収集している。
- 燃やすごみと資源ごみは違うので、資源としてリサイクルするものは、燃やすごみと収集方法を別で考えた方がいいのではないか。また、資源としてリサイクルするものについて、燃やすごみと違うということや、どういう状態のものが資源になるのかなど、市は住民によく教えていかなければいけない。
- 一番問題となるのはプラスチック製容器包装なので、メリットやデメリットを整理し、汚れたものは燃やすしかないということも考慮したうえで、審議したい。
- ビニールプラスチックを固形燃料化した際に、新清掃工場を使うコークスの代用としてもいいのではないか。

(事務局注：新清掃工場については、酸素式の高温燃焼のため、コークスは不要です。)

○今日の資料を基に素案を作成するのか。

→今回はたたき台として案を出したが、審議会の意見を踏まえ変更する部分は変更し、もう少し補足説明した素案になる。

#### [家庭系ごみの有料化等]

○売却できるごみとできないものを明確にして欲しい。

→まず資源で分けてもらうということで、市民の方々の協力をいただいているので、もし有料化となっても燃やせるごみからになると考えている。

○資源ごみは無料となれば、排出する側は積極的に分別すると思う。

○家庭系ごみ有料化には反対である。必ずしも発生抑制にはつながらないと思う。

◎ごみを減らす方法について、他にどんなことを考えているか。

○やはり分別区分を細かくすることであり、社会を良くするために社会の一員である市民が手間をかけるということは必要と考える。

◎ごみの分別方法や出し方、分別の理由などについては、市が市民に徹底して知らせていくことが肝心だと思う。

○ごみの排出状況が地域によってどう違うのか市で把握していれば、地区によって市の指導方法も変わるのではないか。また、資源ごみを売却して地域の資金源にできれば、市民が関心を持ちごみの減量化につながるのではないか。

→現在は旧成田市と下総・大栄地域でごみ処理体系が分かれているが、その部分では成田地域のほうが家庭系・事業系ともに排出量が多い。詳しい分析は行っていないが、市内全域で見ると、市街地のごみが多く、農村部の方が少ない。

○有料化は市民の意識改革のためか、市の財政補助のためか。

→ごみの排出抑制の一手法と考えている。

○今日配布したような資料を、市民の目に届くようにして欲しい。

→今回の資料についてはまだ議論の途中なので、ある程度内容が固まった時点で、広報などを通じて広く知らせていきたい。

○子どものころから環境教育を行うといろいろな資料に出てくるが、市ではどのような対策をしているか。

→学校教育の中でも当然進められているが、他にも環境計画課が事務局となっている、「なりた環境ネットワーク」では、地域の環境整備活動を行った学校等に対して、申請があれば最大 5 万円の補助を行う制度や、印旛沼自然観察会など、いろいろと参加の機会を設けている。また、小学校 4 年生ぐらいで公共施設の見学会があるので、そこから環境教育に入っていくという部分もあるのではないか。

◎小学校 4 年生ぐらいで、リサイクルプラザを見学するという話を聞いたことがある。子どものころからの環境学習を進めて欲しい。

- ごみの分別と有料化では概念が違う。分別をすれば有料化しなくてもいいということではない。市として、ごみ処理手数料設定の根拠を示さないと市民が納得しない。
- 有料化でごみの排出抑制ということであれば、事業系のごみは排出量が多いので、事業系ごみの値段を高く見直すべきだ。
- 有料化を考える際に、排出者の公平性を考えることが必要だ。粗大ごみについて、多く排出する人は有料として欲しい。環境に関心がある人は減量に努めると思う。
- 新清掃工場が供用開始したら富里市のごみも搬入されるが、富里市は一部有料化しているので、足並みを揃えた方がいいのではないかと考えている。
- 不法投棄が増えている地域もある。有料化したらさらに不法投棄が増えることが考えられるので、考慮して欲しい。

### (3) その他

その他、以下の意見等が出された。

- もっと時間をかけて話し合いたいので、審議会を月一回開催にできないか。
- 時間を気にしながら話をしなければならず、時間が足りない。
- ◎何かを考える場合、時間をかけたから良いというわけではない。意見等がある場合は、事務局に直接文書で出して欲しい。
- 以前に文書を出したが回答が来ていない。
- ◎これからはできる範囲で回答をしてもらいたい。
- 以前に事務局に提案したので、話し合いの中で出さなくてもいいが、報告だけはしてもらいたい。
- 議事のことだけでなく、環境についてフリートークする機会も必要だと思う。
- 市の環境関連の審議会はいくつあり、どういう内容なのか説明して欲しい。
- 従前の環境審議会と廃棄物減量等推進審議会が合併し発足した、現在の環境審議会と、ごみのポイ捨て関係の審議をする、空き缶等及び吸い殻等散乱防止審議会の二つがある。

## 6 傍聴

傍聴者 4 名。

## 7 次回開催日時（予定）

平成 22 年 8 月 19 日（木） 午前 10 時～